

※以下は枝葉末節な話ではありますが、細かいことでも患者様への説明責任を果たすという考え方にに基づき、本資料を公開します。

従来より、診察・処置、および検査・コンタクトそれぞれに、混雑度(待ち時間水準)や余裕の有無を記号で表現しております。

ここでは、[先日 11/20 公開資料](#)の補足として、当院内での混雑実績の判定方法、特に以下の2つの違いについて厳密にご説明します。:

- ・◇ = 完全に空いてはいないが、少しは余裕があった
- ・◎ = 間に空きがなく、余裕がなかった

原則としては、診察・処置、および検査・コンタクトのどちらも、余裕が少しでもあったか、無かったかの違いで判定してはおります。

ですが、厳密には、診察・処置、および検査・コンタクトそれぞれに以下のように判定方法に微妙な違いがあります。:

### (1) 診察・処置

院長の手が空いていたか否かで判定します。

原則は診察が続いていたか/途切れていたかで判定していますが、途切れていても、次のような行為中の場合は余裕なしと判定します。

- ・前後の患者様の診療のための文献調査
- ・ // 他院への問合せ
- ・患者様にお渡しするご紹介状の執筆など

特に混雑時は、その場では診察が途切れていたかの判定しかできないことが多く、後からの検証により◇が◎に変わることがあります。

### (2) 検査・コンタクト

原則は検査担当職員の手が空いていたか否かで判定しますが、次のような場合は余裕なしと判定します。

- ・主要な検査機器が全て使用中の場合(人手は◇でも機器が◎)
- ・検査は空いていても次の処置の準備等に從事していた場合
- ・**直接の検査担当以外の**職員のみ手が空いていた場合

当院では、十二分な訓練を積んだ上で、直接の検査担当職員以外でも混雑時の応援要員として検査を担当できる柔軟な体制を採っています。(直接の役割は受付および診察室付の担当者)

ですが、その応援要員の手が空いていても、直接の担当の手が全て空いていない場合、◇ではなく◎と判定しています。

(正確には余裕があるはずですが、あくまでも直接の担当・持ち場ではなく、その分診察室や受付がわずかに手薄になること等を踏まえ\*)

\*: 他にも、将来的な担当・持ち場別の要員増強を検討する場合、応援要員込みの◇◎判定では、正確な検討データにならなくなるため

特に混雑時は、以下のような簡易的な判定しかできないことが多く、後の検証で◇が◎に変わることがあります。

- ・その場で検査中の患者様が何名いらっしゃるか
- ・検査待ちの患者様がいらっしゃるか

できるだけその場その場で正確な判定ができるよう努めておりますが、やむを得ず後から変わる場合がある旨、ご理解いただければ幸いです。